

別紙

## 令和7年度 助産学科入学試験 小論文問題

Aさん（46歳、初産婦、会社員【管理職】既婚）は、月経不順、不正出血を主訴に産婦人科を受診した。「管理職となり、仕事が忙しくここ1、2年ずっとストレスフルな状態だった。元々月経不順で、2か月に1回とか、それ以上間隔が空くこともあった。そろそろ閉経かなと思っていたら2、3日前からピンク色の出血が時々下着に付着する様になった。母が子宮体癌で抗がん剤治療中なので、怖くなって受診しました。」

外来にて、超音波検査、検尿施行。最終月経詳細不明。尿中hCG陽性、超音波検査では子宮内に胎児および胎児心拍を確認した。Aさんの既往歴に特記すべきことはない。医師から妊娠11週相当、切迫流産の診断を受け、自宅安静の説明を受けた。

Aさんは「まさか妊娠しているとは思わなかった。いま大きなプロジェクトを任されている。子どもを持つライフスタイルは自分も夫も考えていなかった。自宅安静と言われても、現実を受け入れられない。まず、帰宅後夫に相談します。」と話し、驚きを隠せない様子であった。